

第3回江の川水系八戸川流域川づくり検討委員会 議事要旨

日 時：令和元年9月2日(月) 13:00-15:00

場 所：桜江総合センター研修室

出席者：別紙出席者名簿のとおり

報 道：3社 傍聴者：無し

議 事

1. 委員会設置要綱説明及び委員紹介

別添委員会設置要綱、委員名簿のとおり

2. 概要説明

- ・ 前回の説明内容について
- ・ 住民アンケートの結果の反映について
- ・ 委員意見への対応について
- ・ 今後のスケジュールについて

3. 質 疑

- ・ 昭和47年には大きな被害を受けた。今後、どんな雨にでも対応できる整備ができれば良いが、まずは事業の早期完成をお願いしたい。また、景観に配慮して事業が遅れないようにして欲しい。
→ (事務局) どんな雨にも対応することは困難だが、被害をできるだけ少なくするため、堤防強化対策を行うこととしている。できるだけ早く進めたいと思っているので、ご協力をお願いしたい。また、景観の配慮についても、事業の進捗に影響がないように行っていく。
- ・ 今後、維持管理で掘削を行っていくが、どのような計画で行っていくか。
→ (事務局) 河道内に3割程度溜まれば、掘削を行うルールとなっている。資料1の30頁にあるように、必要に応じて実施していく。
- ・ 河川整備計画のメニューとは別に行う今田樋門の設置はどのようなスケジュールで行うのか。また、詳細な計画はいつ示してもらえるのか。
→ (事務局) 今田樋門は、今年度詳細設計を行うため、施工はそれ以降になる。詳細な計画が決まった段階で説明をしたい。
- ・ 玉川で拡幅することだが、家屋移転についてはどのようなスケジュールで行っていくのか。また、管理道は設置されるのか。
→ (事務局) 現在、詳細設計を行っており、今後対象者へ説明を行う。資料1の27頁にあ

るように両岸に3 m幅の管理道が設置される。

- ・昭和 47 災害と平成 30 年災害の関係について、河川整備計画に記載してもよいのではない
か。
→（事務局）今後、検討する。
- ・樹木伐採や草刈りと貴重種保護は相反すると思うが、具体的にどのように行っていくのか。
→（事務局）貴重種保護とのバランスをとって伐採等を行う。他河川で、貴重種を一度別の
場所に避難させた事例もある。
- ・コンクリートで施工するデメリットはあるか。
→（事務局）コンクリートのデメリットは、流速が速くなることである。八戸川を含む中
小河川ではコンクリートでの整備が多くなっているのが実情である。
- ・河川整備計画に記載してある水位は、八戸ダムの効果を見込んだものか。
→（事務局）八戸ダムの効果を見込んだもの。
- ・資料 2 の P87 に地元の方の川への思いが記載してある。整備する際は、地元の思いを汲ん
で行って欲しい。
→（事務局）地元の方の思いも汲んで実施していきたいと考えている。
- ・「浜田県土整備事務所」という名称は、何をやっている事務所かわかりにくいので、別の呼
び方が良いのでは。
→（事務局）一度検討したい。
- ・江津市としては、現在の活動や文化財等の活用が持続的に行える環境を整備する必要があ
ると考えている。県と住民の方と一緒に検討していきたい。

（事務局）今日いただいた意見を踏まえ、河川整備計画を修正したいと考えている。修正し
たものは、後日委員長に確認いただき、早急に国へ認可申請を行う。

◎結果

- ・昭和 47 年災害と平成 30 年災害の関係について、整備計画への記載を検討する。
- ・河川整備計画を修正の上、委員長へ提出。

（以 上）